

項 目 名	ユニットケア
表 題	ユニットケアへの取り組みと精神的拘束廃止
施 設 名	特別養護老人ホーム安寿荘（介護老人福祉施設）

1 取り組みを始めた経緯、きっかけ

H11.7 開設 H13.4 基本理念の明文化（お年寄りに対する尊敬の気持ち、やりがいのある職場作り、地域社会への貢献） H13.6 全職員へのアンケート実施（基本理念を参考に、安寿荘をどういう施設、職場にしていきたいか具体的な意見を求める） H13.8 ユニットケアへの取り組み決定（職員アンケートの内容より判断） H13.10 運営方針の明文化（利用者の自己実現を目指す 自らの意思決定、自己決定の尊重 個々の生活習慣や文化、価値観、家庭的生活の尊重 自立生活への支援 喜び、生きがいを見出すための支援 社会との接触を保つための支援） H13.12 ユニットケア開始 ユニットケアへのきっかけは、職員の日々の業務の中で、今までのサービスの在り方に対する利用者の立場にたった様々な疑問、葛藤の集約（アンケート）から生まれてきた。

2 取り組みを行った成果

- 施設を小規模化する形態でのケアに変えることにより、ナースコールの回数が減った。（利用者の近くに職員が居る）
- 「第二の我が家」作りを目指し、家庭の雰囲気に近いケア（生活）を意識したことにより、利用者の表情が明るくなったように思える。（職員にも満足感と積極性が生まれた。）
- ユニットケアに対する家族の協力、施設の方針を理解していただくことにより、家族、利用者、職員の絆が強くなった。
- 流れ作業的なケアではなく、今までどおりのペースで自分の生活が出来るようなケアを目指すことにより、利用者、職員共に時間的、心的なゆとりを持つことができるようになった。
- 居場所をしつらえることにより、利用者の行動範囲が広くなり活性化が生まれつつある。
- 「介護に住居がついている」という概念ではなく「住居に介護がついている」という考え方のケアを意識することにより在宅復帰という今後の老人ホームの課題が明確になってきた。

3 拘束に至った経過や原因と考えられるもの

（評価）

- ユニットケアの取り組みにより職員の意識の改革、向上が図られると同時に利用者の精神的拘束も解かれ、QOLの向上が図られた。
- 職員の仕事に対するやりがいと利用者の生きがい感が平行して進行している。

（今後）

- 自己実現を目指す、在宅復帰への取り組み（小集団生活訓練の実施）
- 自己実現を目指す、施設内サービスの充実（オムツを精神的、身体的拘束と考え、オムツはずしの実施を今後も継続する。）
- 地域社会との接触、交流を深める（利用者参加の家族・地域介護教室の実施）
- 利用者、職員の心のゆとり、時間的ゆとり、寄り添うケアを意欲的に作るためにどうしていくか考える。
- 利用者1人1人の人生の質を考え生きがい作りをしていく。
- その人がその人らしく生活するための家庭的な環境作りの創意工夫。
- 職員の情熱とたゆまない努力の継続、職員の質の向上を目指す。